

異なる音楽的伝統を背負う二人の笛吹き、ヨーラン モンソンと松本太郎。  
 共通点は美しい祖国に育まれた自然な音色を愛する心とアグレッシブな演奏をする所。

笛という楽器の可能性を何処までも追求する冒険者である事も。

それぞれの伝統音楽から熱いセッション、ロマンティックなバラードまで、

笛だけでここまで出来る、笛だからここまで行ける。

風の引き合わせた異文化が溶け合い、時に火花を散らすクロスオーバーコンサート。

写真提供：スキャンジナビア政府観光局 <http://www.visitscandinavia.org/ja/Japan/>

## ヨーラン モンソン

スウェーデンのフォークシーンにおいて、最もエキサイティングで大胆なフルート奏者。四代にわたる伝統音楽演奏家の家系を受け継ぎつつも、ロックやクラシック、古楽、ジャズなど多くの音楽を演奏。特にセッションを得意とし、様々な音楽のレコーディングに参加している他、パーカッショニスト、フルート奏者として世界中をツアーする。また、日本で発売されている無印良品のBGMシリーズ8<北欧のトラディショナルミュージック>にも参加している。全長1.6mの巨大笛「コントラバス・ブロックフレーテ」、数種類のリコーダー、フルート等、ありとあらゆる形の笛を演奏する。「笛」という楽器にあらゆる可能性を感じさせるパフォーマンスと演奏力が人々を魅了している。



© 林繁樹

## 松本 太郎

1973年、大阪生まれ奈良育ち。青春期の4年間をオーストラリアで過ごす。1989年、竹保流のライリー・リー師に師事。オーストラリアのグリフィス大学に在学中、偶然耳にした海童道祖の録音に感銘を受け、尺八演奏家を志す。1997年より、琴古流の石川利光師に師事。虚無僧本曲、古典三曲、蘭童曲を学ぶ。後に九州系地歌との合奏法を、生田流の中野幹子師に、琴古流鈴墓会の手法を米村鈴笙師に学ぶ。ロックバンド「沙弥音」での活動を経て、ピアニストのロジャー・ワルツヒとのユニットで2枚のジャズCDをリリース。虚無僧本曲をベースに、ジャズセッション、三曲、現代音楽ほか、各種コラボレーションの分野で活動する。2010年には、平城遷都1300年祭記念式典において天平楽府の一員として御前演奏、また松下功作曲のオペラ「遣唐使」で尺八のソロパートを務めるなど、活動の場を広げている。

